

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	老年援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	2年生教室・実習室
担当教員	中村 裕子	実務経験とその関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》						
<p>老年期にある対象の特徴を理解し、加齢による変化が生活に及ぼす影響を踏まえた上で、高齢者に必要な生活支援を安全に実施する看護援助について学ぶ。高齢者の尊厳と自立の視点を持って生活支援に携わる必要性を理解する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>出席状況、筆記試験での総合的な評価。筆記試験80% 課題20%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>①専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) ②専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患(医学書院) ③専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ④根拠と事故防止からみた 基礎臨床看護技術(医学書院)</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>シラバスに沿って次回授業についての予習を行い授業に臨む。授業後は配布資料・ワークシートや教科書での復習を行う。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴や、加齢に伴う身体機能の変化について復習しておくこと。基礎看護技術で学んだ日常生活援助についても復習し、理解したうえで本授業に臨みましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴や、加齢に伴う身体機能の変化について整理し理解度の確認ができる	テキスト①② 1年次に作成した「加齢に伴う身体機能の変化」のワークシート	事前学習 シラバスを読んでおく。高齢者の特徴、加齢に伴う身体機能の変化について復習しておく(40分) 事後学習 講義をまとめる(20分)	
		各コマにおける授業予定	高齢者の特徴と、加齢に伴う身体変化について学ぶ			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者とのコミュニケーションの特徴について理解できる。構音障害・失語症などについて理解し、必要な看護を考えることができる。	テキスト① 配布資料	事前学習 構音障害、失語症についてノートに自己学習しておく(30分) 事後学習 講義を復習する(30分)	
		各コマにおける授業予定	高齢者とのコミュニケーションと起こりやすいコミュニケーション障害について学ぶ			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の日常生活における環境や基本動作の重要性を理解し看護を考えることができる。	テキスト① 配布資料 課題レポート	事前学習 基本的な日常生活動作についてノートに復習しておく(30分) 事後学習:講義を復習する。課題レポートをまとめ、提出する(30分)	
		各コマにおける授業予定	日常生活を支える基本動作① — 基本動作と環境のアセスメントと看護について学ぶ			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者に生じやすい転倒について要因や高齢者に与える影響を理解し看護を考えることができる	テキスト①③④ 配布資料	事前学習 「高齢者が転倒しやすい要因」「転倒が高齢者に与える影響」についてテキストを読んでおく(30分) 事後学習 講義を復習する(30分)	
		各コマにおける授業予定	日常生活を支える基本動作② — 転倒のアセスメントと看護について学ぶ			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	高齢者という視点を持ち、安全な移動援助や環境整備が実施できる。	実習室にて白衣で実施。ベッド、オーバーテーブル、車いす演習シート	事前学習 麻痺のある高齢者のベッドから車いすへの移乗手順と注意事項、安全なベッド周囲環境をノートに予習しておく(40分) 事後学習 演習をリフレクションする(20分)	
		各コマにおける授業予定	日常生活を支える基本動作③ — 加齢に伴う身体変化を踏まえた安全な移動援助、環境づくりの実際について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	廃用症候群の要因や症状、予防の重要性を理解し、看護を考えることができる。		テキスト① 配布資料	事前学習 廃用症候群の定義・主な症状についてテキストを読んでおく(30分) 事後学習 講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	廃用症候群のアセスメントと看護について学ぶ			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	褥瘡発生のメカニズムと予防の重要性、褥瘡評価について理解できる。褥瘡予防と看護について考えることができる		テキスト①② 配布資料	事前学習 褥瘡の定義と原因、好発部位を復習しておく(30分) 事後学習 講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	褥瘡のアセスメントと看護について学ぶ			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	摂食・嚥下機能のメカニズムや高齢者に特徴的な変調、栄養評価について理解できる。		テキスト① 配布資料	事前学習 加齢に伴う消化器系の身体機能の変化について復習しておく(30分) 事後学習 講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の食事と看護ケア① — 摂食・嚥下機能について学ぶ			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	高齢者の食生活への支援、口から食べることの重要性について理解できる。		テキスト①③④ 課題レポート DVD	事前学習 人にとっての食事の意義を復習する。「栄養状態のアセスメント」についてテキストを読んでおく(30分) 事後学習 課題レポートをまとめ提出する(30分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の食事と看護ケア② — 経口摂取での食事に対する看護について学ぶ			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	経鼻経管栄養の必要物品、手順、注意点が理解でき、経鼻カテーテルの挿入手技が指導の下実施できる。		実習室にて白衣で実施。モデル人形、経鼻カテーテル、イルリガートルなど。 演習シート	事前学習 演習に向け、経鼻経管栄養の意義、適応、手順について演習シートを用いて学習しておく(40分) 事後学習 演習のリフレクションを提出する(20分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の食事と看護ケア③ — 経管栄養について学ぶ			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	高齢者の排泄障害について理解できる。		テキスト① 配布資料	事前学習 人にとっての排泄の意味、排泄のメカニズムについて復習しておく(30分) 事後学習 配布資料を修正し完成させる(30分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の排泄と看護ケア① — 高齢者の排泄障害について学ぶ			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	高齢者の排尿・排便障害それぞれの原因とアセスメントと看護について理解できる。高齢者の尊厳を守る排泄ケアを理解できる		テキスト①③④ 配布資料	事前学習 加齢に伴う腎・泌尿器系の身体機能の変化や排泄のアセスメントについて復習しておく(40分) 事後学習 講義を復習する(20分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の排泄と看護ケア② — 排泄障害のアセスメントと看護を学ぶ。高齢者の尊厳を守る排泄ケアを考える			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	高齢者にとっての清潔の意義と、生じやすい健康問題、安全な清潔援助を行うための注意点について理解できる。		テキスト① 配布資料	事前学習 清潔援助の目的、加齢に伴う皮膚・感覚器・循環器系の身体機能の変化について復習しておく(40分) 事後学習 講義を復習する(20分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の清潔のアセスメントと看護について学ぶ			
第14回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	高齢者の特性を踏まえて、安全で安楽な排泄・清潔援助について考え実践できる。		実習室にて白衣で実施。モデル人形、バルンカテーテル、オムツ、シャワーボトル 演習シート	事前学習 麻痺のある高齢者の更衣、バルンカテーテル挿入中のオムツ交換・陰部洗浄の手順と注意事項を学習しておく(40分) 事後学習 演習をリフレクションし提出する(30分)
	各コマにおける授業予定	加齢に伴う疾患を踏まえた安全・安楽な排泄・清潔援助の実際について学ぶ			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	高齢者に特徴的な生活リズムの変調とアセスメントについて理解できる。生活リズムを整えることの重要性について理解し、看護を考えることができる。		テキスト① 配布資料 演習シート	事前学習 人にとっての活動と休息の意味について考え演習シートにまとめる(30分) 事後学習 講義をまとめる(30分)
	各コマにおける授業予定	高齢者の生活リズム(活動と休息)と看護について学ぶ			